

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091800072		
法人名	株式会社 イーホーム		
事業所名(ユニット名)	グループホーム ハピネス岩出		
所在地	和歌山県岩出市森259-1		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成25年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様やご家族様のご要望やご意見を常に受け止め、どのような場合でも従来の枠組みにとらわれず迅速かつ柔軟な対応を行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは車の往来の多い道沿いに立つ2階建ての建物で、廊下やリビングには季節の花や絵画があちこちにあり、温かみのある室内になっている。また、玄関のすぐ前にエレベーターがあり、1階と2階の行き来はスムーズにできるようになっており、各自の居室も広々としている。夜間死角になる部屋の利用者には、なるべくスタッフが付き添い、安全面と、寂しさに寄り沿う支援を行っている。比較的スタッフの配置に余裕がある午後などはお天気や利用者の体調等を考慮して散歩やドライブ等に出かけている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議にて話し合いを行い、施設理念の理解と実践への共通認識を持ち業務に臨むよう、意識の向上に努めている。	人を大切にする、人を幸せにするという主旨の理念を掲げ、職員会議等で理解を深めるよう努めているが長い文章のため共有化しにくい。	理念は変えなくても、その一部を具体的な言葉で表した目標を作り職員間で共有する等、理念の共有化を進める取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	岩出市の敬老会や地域の催しに参加。演芸鑑賞や体験工作にも参加し、地域の人々と交流している。玄関前の花壇やプランターに花を植え通りかかる方にも楽しんで頂き、挨拶をかわしている。隣の畑で採れた野菜を頂くことがある。	自治会へ加入している。利用者は日常的に買い物にスーパーへ出かけたり、また、市の行事にも積極的に参加している。散歩途中で農作業をしている人等に挨拶をする等、地域とのふれあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアに來所して頂き、入居者もレクリエーションや工作に参加される。定期的に交流を持ち、認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度の開催。活動状況を報告し、参加者からご意見を頂き、サービスの向上に活かすよう努めている。ご家族と一緒に参加される入居者もおられ、参加者とお話をされる。	3ヶ月に一度の開催ではあるが家族や地区長、民生委員、市、包括支援センター職員の参加で行われている。会議では貴重な意見をいただいて運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、ホームの状況や活動を報告し相談。助言を頂き改善を図るよう努めている。	運営推進会議にも積極的に意見を出してくれ等良き理解者であると共に、連携を深めてサービスの向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解し、身体拘束のないケアに努めているが、建物の構造上、1階の玄関に職員が目が届きにくく、車の通行の多い道路に面しているため、安全を確保できないと思われる場合に限り施錠している。	建物の構造上、玄関に目が届きにくく施錠の必要性が生じることもあるが、外部講習会などに積極的に参加して身体拘束について学んでいる。さらに伝達講習で職員全員に周知徹底をはかり抑圧感のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修会に参加、その後研修報告会を開き、日々のケアについて話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者がおられ、後見人様が来所の折にご意見をいただきながら、勉強の機会を設け理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に理解して頂けるよう説明・確認した後に、書面にて同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は家族会の開催はなし。施設での催し事や外出行事にご家族も参加して頂き、ご意見や要望を伺える機会を作っている。また面会時にもご意見を伺いながらサービスの実施に努めている。	毎月の利用料金の支払いを直接持ってきて頂くようにし、その際に利用者の1ヶ月間の様子やイベントの写真などを見ていただくと同時に、家族の要望や意見を伺うようにしている。また、意見は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や月末に書く報告書で、職員のそれぞれの意見や提案を出し合っている。提案のあった事項は検討の上実施されている。	職員会議や、担当者が書く1ヶ月の様子を読みあうことで意見を出し合い、脱衣場を広くするなどの意見を検討し反映させている。さらに年1回本社社長との面談で提案や意見を伝えることで運営に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や取り組み、実績を十分に把握し、それをもとに向上心を持って働けるよう配慮している。職員から提案のあった事項には可能なかぎり実施し、設備の充実を図り環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の実践力を高めるため研修会への参加を促し、報告会にて発表。職員全体が、正確な知識と技術を身に付けケアに活かせるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、情報交換や施設訪問の機会を得る。施設の行事にも招待頂き、入居者と共に訪問させて頂く機会があり、その活動を通じてサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安を取り除くよう何事にも傾聴・共感し、寄り添うように努力している。本人の思いを理解し、安心して頂くことによって良好な関係づくりを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に、向き合い方への悩みや不安・要望等をお聞きして話し合いながら支援の方向を決め、ご家族の協力を得てケアをしていく中で、信頼関係を築いて行けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人の要望を伺いながら、必要な支援を見極め、医療機関などとも連携して対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除・洗濯等の家事や、家庭菜園での野菜作りの作業を共に行い、また外出の折には一緒に外食をするなど、家族同様に日常生活を送ることで喜怒哀楽を共にするよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員間で情報を共有しご家族への報告・相談を密に行い、要望を伺っている。ご家族との外出や受診時に同行して頂く等、協力して支援して行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで参加されていたサークルの方がボランティアでお越し下さり、合唱やお話をして過ごす。ご家族と電話で話したり、お寺や公園などよく行った場所にでかけている。	利用者が近隣の方が多いことで、入居前に入っていたコーラスグループに慰問に来ていただいたり、その日のお天気や体調にもよるが、これまでの馴染みの根来寺などへのミニドライブによく出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出などを通じて、職員が見守りながら、仲良く助け合える関係が築いて行けるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、面会に伺ったり、ご家族に経過をお聞きし相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の思いや希望、悩みには絶えず耳を傾け、またご家族にもお話を聞いて参考にし、意向の把握に努めている。	スタッフ利用者共に行う朝9時のティータイムには30分ほど時間を取り、利用者の状況や要望把握に努めている。また、家族には個別の面会の機会を作ったり、イベント等を案内することにより、参加していただけるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から過去の暮らしや生活環境についてお話を聞き、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活の流れや心身の状態を把握し、その人のその時々に応じた取り組みを考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者それぞれに担当職員を決め、ご本人がより良く暮らすための課題やケアについての状況を話し合い、ご家族や医療機関とも相談しながら現状に即した介護計画を作成している。	担当制をとっており、利用者それぞれによりきめの細かいケアを行っている。家族や月1回の受診での医師の意見も取り入れてケア会議を経て現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個々の記録に記入し、共有した情報をもとに改善点を見出し、介護計画の見直しを行い、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の心身の状態を把握し、ご家族の意向をふまえ、可能な限り希望に添えるよう柔軟な対応をこころがけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	過去の暮らしや生活環境を把握し、一人ひとりの持つ力を発揮し、いきいきと生活して頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族が希望する従来のかかりつけ医や施設の協力医療機関での受診を支援。診察には職員が付き添いが、ご家族が同行して下さる場合もあり、適切な医療を受けられるよう支援を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医や協力医療機関の月1回の受診は、日常をよく理解している職員が付き添い、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要な時には、訪問看護を受けたり健康相談をし、一人ひとりに合った適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、安心して治療できるよう度々訪問し早期退院に向け主治医に相談・情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の希望を伺い、施設では看護職員がいないことや設備的に対応できない事項を説明し、重度化したときや終末期をどうするか話し合いできる限り希望に添えるよう努めている。	グループホーム用に建設されたものでないため構造上の風呂やトイレの問題、また看護職員が不在ということ等、現在の事業所のありのままを話し、重度化対応について納得のいく話し合いを続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や急変時の対応をスムーズに行えるように、日頃から職員会議や講習などで定期的な訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間を想定し避難訓練や消火訓練を行っている。運営推進会議の際に参加して下さった地域の代表に訓練の状況を報告し、災害時の協力をお願いしている。	建物の構造上、避難訓練には重点を置いている。消防署立ち合いのもと昼夜とも想定した訓練では、利用者も参加しタイムを計ったり、スタッフ全員が消火器を実際に扱う等している。消防署の指導を受け、1階と2階の各1室の居室を集合場所と決め消防車の到着を待つようにしている。また、地区長や民生委員の家も近くにあり、運営推進会議の中で災害時の協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの意思や人格を尊重し、プライバシーを守り自尊心に配慮した声かけや対応を心がけている。	利用者は名字にさんを付けて呼んでいる。中にはパニックを起こす利用者もおられるが、無理矢理納得させるのではなく、利用者の尊厳を守る対応を心掛け、時には他のスタッフと交代する等し、落ち着いて頂くこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の話に耳を傾け思いに向き合い、ご本人のペースに合わせ、不安が和らげるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に、体調も考慮しながら、希望に添って過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問理容を利用、希望の方には毛染めを行う。必要に応じて、衣類の購入に職員が付き添うこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなどの調理や、盛り付け、下膳や食器洗いなどを手伝って頂き、職員も一緒に食事をする。ベランダで育てたトマトやきゅうりを食べる事もある。	食事中はテレビを切り懐かしい音楽を流し、職員と一緒に食事を楽しんでいる。また、季節によってはベランダで育てた野菜が食卓を豊かにしている。下膳は殆どの利用者が、自分で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し把握する。摂取量が、少ない場合は嗜好品で補ったり、主治医に相談し栄養補助食を摂取。主食は米飯・粥・パンを状態や好みに応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はみがき、うがい、義歯洗浄・消毒など、一人ひとりの状態に合わせて、声かけ・見守り、介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライドに配慮した声かけ誘導をしている。排泄のサインや行動を察し、トイレでの排泄を支援している。	毎日利用者の排泄の記録をすることで、排泄の状況を把握している。トイレが狭いことや夜間の排泄のために、ポータブルトイレを居室に配置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と、食材や調理方法の工夫や適度な運動を取り入れ、また便秘が続く場合には、主治医に処方された下剤を服用し定期的に排便がみられるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に曜日や時間を決めずに出来るだけ入居者の希望によって入浴して頂いている。入浴を嫌がる時には、時間をおいて再度勧めるなどの対応をとっている。	入浴を嫌がる利用者へは再度の声掛けをしたり、それでも入ってもらえない場合、家族に来ていただくなど協力を得て、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後はしばらくリビングで過ごされ、頃合いをみて居室へ誘導する。室温や明るさなどご本人の希望や状態に応じて調節し、快適な環境で休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬についての情報は個別の記録簿で常時確認を行う。変更や臨時薬などは速やかに連絡を行い、全員が把握し対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意な分野を生かして役割を分担して頂き、張り合いや喜びを感じて頂く支援に努めている。レクリエーションや地域の催しへの参加、外食などで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者からの希望に応じて施設周辺の散歩や、それ以外にも職員が誘って、散歩やドライブなど外出の機会を作っている。	男性職員が多いことや、毎日のスタッフに余裕があることで、昼食後からおやつ時間に、近所での散歩コースを歩いている。また、月2回ほどは近くのスーパーにおやつを買いに行ったり、趣味の材料を買いに行くなど、外出の機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解を得て職員が金銭管理を行っているが、買い物に出かけた際には能力に応じてなるべく支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望があれば電話をかけてお話される。ご家族には月に1度、健康状態や行事について写真を添えて便りを送付し近況の報告をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに手作りの貼り絵や行事の写真を飾り、窓からは自然風景が眺められ、季節を感じる事ができる。室温や明るさの調整や換気を行い、心地よく過ごせるよう心がけている。季節の野菜や花を育て楽しんでる。	大きくとられた窓から木々や畑が広がって、明るく開放的な気分が味わえる。しかし室内の居室の並ぶ廊下は居室を広く取った分、狭く見通しがよくない。	その狭い廊下を利用者が一人両腕を広げて手すりを持って歩くと安全でよいリハビリになる等発想の転換を図り肯定的に捉えている。トイレや浴室等建物の構造上の問題点も同様に職員等で工夫して前向きに使用されることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓テーブルの他にソファを置き、カラオケやゲームなど思い思いに楽しまれ、入居者同士で会話もはずんでいる。疲れた様子が見えたら居室に誘導し、休まれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご本人が使い慣れた物や好みの物を持参頂く。手作りの貼り絵や工作・家族の写真、鉢植えの花などを飾り心地よく過ごせるよう工夫している。	居室は広くゆったりしており、ベッドの方が大半だが希望により布団を使用する方もおられる。それぞれ使い慣れたタンスや手作りのもの、家族の写真等に囲まれ居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせて居室の必要な場所に手すりを付けたり、ポータブルトイレを設置。夜間は室内灯を点け安全に過ごせるよう支援している。トイレや浴室には張り紙をし迷わず使用できるよう工夫をしている。		